

(様式2) 令和3年度 [自己評価報告書]

学校番号	学校名
4	川崎市立橋高等学校 全日制
校長名	高井 健次

- (1)書き方については、平成19年度「学校評価報告書」P17-18を参照ください。
- (2)評価項目設定については、各学校の実情に応じて捨捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
- (3)学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
- (4)「今年度のおまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のおまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標		学校経営の目標	今年度の重点目標
真理と正義とを愛し互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体得		1 課題解決力を育てる教科指導 2 進路を見すえた特別活動等の指導 3 豊かな心で社会貢献できる人材の育成 4 魅力ある学校づくり	・基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成 ・個々の進路を考えた進路指導・生徒指導・総合的な探究の時間・特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ・人権尊重教育・道徳教育・共生教育等の推進と共に、ESDのさらなる取組により豊かな心と社会貢献できる人材の育成 ・開かれた、信頼される学校づくりと活力あふれる教職員組織の構築
評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	令和4年度から始まる新学習指導要領に対応したカリキュラムを決定する。また、単位数に合わせ、新たに時程を作成する。さらに観点別評価における本校の基準作りの検討を実施する。家庭学習による自己学習力を強化していくため、今まで実施していた課題提示に加え、オンラインによる学習環境を整えていく。また、課題解決能力を身に付け、個々の思考・判断・表現力を高める授業展開の工夫をさらに凝らしていく。	学校評価アンケートの結果から、個々の生徒に対する理解力に応じた教科指導について、教員側と生徒側の考えに大きな差が見られる。また、家庭学習が不十分であると考えられる生徒が多い。さらに新型コロナウイルス感染症予防の観点から時差登校や分散登校などで授業時数の減少もあり、家庭学習日のオンラインによる進路意識を高め、進路相談など細やかに行うことができた。また、増加傾向にある推薦の希望者や大学入学共通テストなど、生徒の進路実現のために、最新の情報を集め対策を立てることが今後の課題である。	未来構想委員会では、新カリキュラム、それに伴う時間割・時程変更について決定した。また、教育課程検討委員会が中心となり新学習指導要領に伴うカリキュラム内容を検討し、実施に向けて具体的な内容の決定をした。今後は観点別評価が指導要録に記載されるための評価の基準等を本校ではどのように実施していくかを検討し、決定していく。また、自己学習の習慣化をサポートしていくため、既存の学習環境に加えてオンラインによる学習環境の整備を行う。さらに、学習委員会などを活用し、全校で共通して取り組む体制を整えたい。またユネスコスクール参加により本校の特色を更に打ち出す必要がある。
2	3年間を見通した進路計画に立脚し、各学年に応じた段階的な進路指導を実践する。また、選択カリキュラムに対応したキャリア教育や外部講師による講演、大学見学(体験授業)などを実施する。進路指導ガイダンスや講演会(セミナー)を開催し、内部・外部からの一貫性のある指導やサポートを計画的に行う。個別相談の時間を確保する。模試は計画的に行い、共通テスト対策においては、生徒と向き合いながらきめ細やかに指導する。保護者へ最新の情報提供を努めた上で生徒一人一人の進路実現のサポートを行う。	各学年における進路ガイダンス、進路講演会およびセミナー、大学見学(訪問)、生徒各々がキャリア計画につながる時間とした「進路学習の日」などを実施した。これにより各大学や多くの専門学校の方々が生徒と向き合いながら話すことができ、生徒にとって有意義な時間を設けることができた。朝学習を活用した進路指導部によるミニガイダンス、学年や各科の生徒状況に合わせた進路指導・情報提供を行った。生徒一人ひとりの進路意識を高め、進路相談など細やかに行うことができた。また、増加傾向にある推薦の希望者や大学入学共通テストなど、生徒の進路実現のために、最新の情報を集め対策を立てることが今後の課題である。	思考力、キャリア・プランニング能力の向上に向けて、より多くの体験的な学習や外部講師の活用を工夫していく。生徒の職業意識や人生観を育むため、学年・学級担任、家庭とのより一層の連携・協力を目指す。生徒一人一人が自分の未来を掛けるようなサポートを早期から取り組む。例年行っている「卒業生からのエール(先輩方の仕事紹介)」などを活用しながら、動機作りや様々な職業を知るといった視点も大切にしたい。今後も進路指導体制の充実を図り、各教科・各学年・各部署に最新の情報を提供し共有することを推進していきたい。
3	「安全で安心して学べる環境づくり」を最優先に規則の遵守と主体的な活動を図る取組で、生活面や身だしなみなど基本的な生活習慣の習得を図り、指導を行う。また、互いを認め合い、尊重しあいながら学校生活が送れるよう指導していく。教育相談面での取組については、学校カウンセラーや外部専門機関との連携をより一層密にし、ケース会議を開き、一人一人に対してきめ細やかな対応ができるようにする。	学校生活を通して主体的に行動できる力を育成していく必要がある。今後も様々な投げかけを生徒に対して行い、自ら考え、行動できるように促していきたい。また、いじめの問題や生徒間のトラブル、心の悩みなどに対して、適宜アンケート調査を行い、生徒の行動を常に注視していくとともに、ケース会議などを開き、管理職、担任、教科担当や養護教諭と連携を取り、生徒たちの様子や声をいち早く察知できる体制と生徒に寄り添ったサポート体制をとっていきたい。	教員間の共通理解を図り、連携をより深めることが重要である。教育相談やアンケート調査、面談など日常生活の中で様々な教員が関わりながら解決できるよう、よりきめ細かく環境づくりと支援技術の向上が大切であると考えられる。また、生徒が主体的に活動できるように、部活動や学校行事などに自ら積極的に参加できる指導を継続していくことが重要であると考えられる。
4	橋花祭(歌合戦、体育祭、文化祭)や各生徒会行事(対面式、部活動紹介、生徒総会、三送会)の企画・運営及び、日常的な組織運営(代議員会・各種委員会・部活動・壮行会等)を、分掌・学年と連携し、生徒が主体的に取り組めるよう支援していく。また、保護者や地域等とも連携し、生徒会活動が充実するよう環境整備と指導を行う。今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策を行い、各行事が実施できるよう努める。	今年度の橋花祭テーマは「FUN」で、今年1年間楽しいという気持ちを持ち続けられるようにこの思いを込めて、生徒会本部役員が考えた。各行事の実行委員会には企画部が設置され、企画部が昨年度の課題解決に向けた改善策を打ち出すとともに、コロナ禍であることを踏まえた内容等を検討し、企画を立てた。各行事では、実行委員だけでなく、多くの生徒が主体的に取り組む様子が見られた。しかし、文化祭は、実行委員会も活動し、各クラスや部活動の企画も決定していたが、中止を余儀なくされた。文化祭の代替として、生徒会本部役員が中心となり、文化部の生徒が発表する機会を設けた。	昨年度に引き続き文化祭が実施出来なかったため、本校の文化祭を経験した生徒がいない状況となり、新たに作り出していかなければならない。よって、来年度、文化祭実行委員会を例年より早く立ち上げ、文化祭実施に向けた準備をしていきたいと考えている。また、新型コロナウイルス感染症予防対策を行い、各行事が実施できるよう工夫していく必要があると考える。
5	各部とも、基本的な技術の定着を図ることはもちろん、肉体的にも精神的にも健康や安全に配慮する。そして、それぞれの目標に合わせた活動ができるように練習計画を立てて行う。指導方針において、助言を丁寧におこない生徒に寄り添った指導を目指す。また、基本的な生活習慣を定着させ、さらに挨拶や礼儀、活動場所の清掃などの指導を丁寧に行い、部活動の成果が日常生活においてもその行動や言動に反映されるような指導をする。さらに今年度においては、昨年度同様感染症予防対策に十分配慮した活動が行われるよう努める。	今年度の部活動指導方針として立てた、「助言を丁寧におこない生徒に寄り添った指導」を実践し、運動部、文化部ともに部活動が活発に行われ、各大会が感染症の影響で中止となる中、複数の部活動が全国大会への出場を果たし、関東大会にはさらに多くの部活動が進出した。各部とも、今年度は特に限られた時間の中で、工夫して技術的に向上に力を入れ、日々の努力が実績となって表れた部が多かった。また、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀、活動場所の清掃などが、学校生活に留まらず、毎日の生活の中でも発揮できている。学習面においては、部活動とのバランスがうまく取れず、ストレスとなる生徒も存在するため、時間の使い方の工夫など継続して支援していくことが大切である。	指導において助言を丁寧に行い、生徒に寄り添った指導によって充実した部活動となった。学校生活における学習・部活動・行事のバランスを上手に取り、前向きで充実した毎日が過ごせるよう、指導・支援を丁寧に行っていく。また、部活動の時間が有意義で成長につながるようにするため、この社会状況の中で今まで以上に地域や保護者のご理解や連携を密にして、協力していただくことが必要と考える。毎日の活動の中で指導・支援の仕方を考え、練習計画や練習内容を工夫することがさらに必要であると考えられる。
6	本校の健康安全面の課題を踏まえ、学校安全計画を立案し現状の改善、向上を図る。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関して、学校全体で危機感を持ちながら感染予防・感染拡大防止に努める。また、生徒の心身の発達段階に応じて、健康で安全な生活を営むのに必要な健康管理能力の育成を図るため「薬物乱用防止教育」「性教育」「けが防止」の講演会を実施した。教職員対象に「食物アレルギー対応」「心筋蘇生法」の研修会を開催し、共通理解を図るとともに、緊急時の校内体制を整えることで生徒が安心して学校生活ができるようにする。	生徒が主体的に自己の健康を保持増進するために、年度当初に交通安全講演会を取り入れ、薬物乱用防止教育講演会、性教育講演会を実施することで系統的に生徒の健康安全に対する意識を高めることが出来た。職員間では生徒の個々の健康課題の周知と対策について共通理解を図り、充実した連携が出来るような研修を実施できた。一方、生徒のメンタルヘルスに関して学校内で解決が難しい症例が増えてきている。適宜ケース会議の実施や学校カウンセラー、外部機関につなげるなど専門的な方々に協力を得るなど連携をしながら、問題解決に向けての支援が必要である。今後も多様化・複雑化する健康課題を抱える生徒が増えることが予想されるので、より充実した支援のできる校内体制が必要である。	健康教育の講演会や新型コロナウイルス感染症予防対策において、家庭・地域・外部機関との連携を踏まえた学校保健に関する組織の運営の工夫を図り、教職員全員で学校保健に関する組織的な活動の活性化を図る。生徒の心の問題については、校内組織を充実させ、スクールカウンセラー・学校医・家庭・医療機関との連携を図りながら、その中心的役割を果たせるように努める。また、今後も職員研修の充実、生徒のニーズに合わせた講演会などを企画実施し、生徒が安心安全に学校生活が送れるように取り組んでいきたい。
7	国際理解教育を通して、世界が抱える諸問題について生徒自らが問題意識を持ってアプローチできるように指導していく。将来的に世界に貢献できる人材となれるように様々な機会を提供する。国際協力機関(JICA・WFPなど)への訪問、高大連携による途上国理解プログラム、国際的な舞台で活躍している講師を招いての国際理解講演会、多文化共生を理解するためのワークショップ等を実施していく。また、国連の目標であるSDGsについて学び、自分に身近なところから考え、行動、発信していくことを促す。コロナ禍において海外渡航や海外からの来訪が困難となっているが、国内でできる語学研修や多文化理解学習、オンラインでの国際交流を企画・実施していく。	今年度も外部との交流が難しい年となり、海外研修や留学生の来日などが中止となったが、1年国内語学研修や、2年スペシャル・ウィークでの多文化理解学習(WFPやJICA横浜訪問など)、ALTを10人集めた交流は実施できた。また、オンラインでの交流学習が実現し、JICA研修員とのオンライン交流をはじめ、国際理解1や課題研究において専門家の方々へのオンライン・インタビューの実施、そして今年新たに採用したグローバル・クラスメイトというアメリカの高校生との半年間のオンライン交流が行われた。その他、国際理解講演会や高大連携等を通じ、生徒達は校外の様々な人との交流から刺激を受け世界が抱える諸問題に目を向けることができた。生徒自らが探究した課題解決方法を発表するだけでなく、実際に実践できるレベルまで深めることが課題である。	コロナ禍で海外との往来がない中でも、国際理解教育において様々な活動を実施した。特にオンラインでの交流先を開拓し、学校にとっても初めての経験で試行錯誤はあったが、無事実施できた。画面越しではあるが顔をしながら交流ができた時の生徒たちの生き生きとした表情は、顔を合わせた交流の大切さを物語っていた。情報化社会で簡単に世界中の情報がインターネットで手に入るが、生の声で触れ合うことを大切にしたい。また、学科目標の一つである「課題解決能力の育成」に関して、生徒たちは自主的に課題を見つけ、グループで協働して課題解決に取り組む姿勢も身に付けてきた。また、プレゼンテーションを通して自らの考えを発信することができた。生徒自らが探究した課題解決方法を発表するだけでなく、実際に実践できるレベルまで深めることが課題である。
8	高大連携事業の一環として、メディカルチェックを国際武大学の協力の下、1年生・2年生で実施する。また、スポーツ総合演習のスポーツ行事の企画運営の一環として、校内新体力カテストに取り組む。小学校2校において新体力カテストの企画・運営・サポートの形で、参加する。	様々な交流の機会が多く設定されており、どの交流に対しても生徒たちは積極的に取り組んでいる。スポーツリーダーを目指した交流の中で、企画力の向上・運営方法の学習、精神面での成長など多くのことを身につけることができたと思われる。課題としては、向く時間を要するこれらの企画・実施の中で、「自分の時間の使い方」「実践力」「進化・発展させる応用力」をさらに身に付け、発展させることが挙げられる。	現在の状況では、交流の場を増やしていくことは、難しいと思われる。これらの活動の目的と専門学科の科目との位置付けを明確にし、実施内容の検討や、体系化をしっかりと組み立て、さらなる充実を図っていきたい。また、指導者側の授業の内容の精選、生徒自らの時間の確保、企画段階での工夫などに積極的に取り組んでいきたい。
9	各校務分掌や委員会、教科からの要望や問題提起に対して、運営委員会内で検討を進め、当該部署に解決策を諮問し、また新委員会を設立して個々の事案への対応を行っている。特に新型コロナウイルス感染症予防対策については委員会を中心に全職員で情報を共有し、協議して諸問題の解決を図っている。生徒指導等に関わる内容や早急に対応したい案件は、臨機応変に臨時職員会議を招集し、生徒の学校生活をサポートできる体制を整えている。	令和4年度からの学習指導要領に基づく新カリキュラムは、枠組及び内容を取りまとめることができた。現在はそれを受けて評価に関する中身や実質的な運用を教科や関係部署と連携して検討し、実施に向けて研究している。担任・分掌調整については、マルチメディア部の仕事内容の増加により、調整方法の一部に変更があったが、職員の理解によりスムーズに実施できている。しかし、今後組織改編や人事異動による変更があると考えられるのでさらに議論を深めていく必要がある。	「コロナ禍」の影響もあり、個々の分掌や委員会では対応できない懸案が増えており、横断的に連携をして解決していくことが重要である。現在は未来構想委員会を中心に新たな課題に関して対応を行っている。さらに学校教育目標を目指し、よりよい組織としていくために、分掌の再編、人数調整等も必要となってくると思われる。
10	「コロナ禍」においても学校行事・生徒会行事・PTA活動への活動には細やかに計画を立て、可能な範囲で取り組めるように立案する。校内担当者間での連携をとり、学校教育活動を円滑に執行していく必要がある。今後も地域・保護者・学校の三者が一体となり、充実した学校生活の構築に努める。地域からの意見や要望を集約し、PTA活動もより効率化していく。「コロナ禍」を踏まえて授業や学校行事等を対面に限らず動画配信の公開も考える。生徒の活動をより多の方に知ってもらい、学校教育活動への理解を深めていく。社会人聴講生を受け入れ、文化教養の啓発を目指し、生徒との活気あふれる協働学習とする。	地域・保護者の理解と協力を得ながら、今年度「コロナ禍」で学校教育活動を行うよう工夫した。11月に学校公開日を設定し、予定通り開催できたことはよかった。地域や保護者からの様々な意見や要望は教員間で共有し、学校内での議論を促進させ、生徒の安全な学校生活づくりに繋ぐことができた。社会人聴講生を書道の授業に3名受け入れ、生徒と共に学び、発表実践を果たした。尊重し合う姿は、学びの向上につながり温かい雰囲気であった。交流会や鑑賞会では、他者を理解し合い、毛筆を楽しむ表情が伺えた。	学校からの情報を家庭に届ける努力を重ねる。生徒への指導を徹底し、家庭への啓発活動も引き続き実施していく必要がある。情報発信の手段も今後検討していく必要がある。コロナ禍により、限定的にするのではなく、総力を挙げて学校から家庭や地域への情報公開、学校公開を丁寧にかつアイデアを募りながら、取り組むよう心がける。これからも保護者と学年・担任との直接の情報交換を基本とし、より有意義な話し合いができる体制づくりに努めていきたい。
学校関係者の評価		今年度のおまとめ・次年度へ向けての取組	
・ICTを活用した授業展開が学校全体でできるよう、教員研修などを通じて時代に応じたスキル等の向上が大切だと思います。 ・生徒会行事や部活動と、授業時間や家庭学習時間の確保におけるバランスを図り、質の高い「文武両道」を目指してほしい。 ・コロナ禍で制約がある中、工夫し形を変えて学校行事を実施できたことはよかった。 ・進路指導においては、さらなる情報収集や分析を行い、生徒一人一人のキャリアプランニングを踏まえ、進路実現に向けた指導・支援の充実を引き続き図ってほしい。 ・ユネスコスクール加盟に向けての取組について、コロナ禍でうまく進めることが困難な状況だとは思いますが、ぜひ継続してほしい。 ・学校組織の効率化、働き方改革の推進をぜひとも柔軟に進めてほしい。 ・毎年同じ傾向にある「生徒・保護者とも学校生活に十分満足している」ことについては、中学校時代に学級・学年・生徒会等の諸活動で中心的な役割を担ってきた経験を持つ多くの生徒が、さらにレベルアップし、学校生活を充実させていくことの表れだと思います。 ・経年で課題とされている学習面における理解力と家庭学習の向上については、より一層の工夫と取組に期待をしたい。		・今年度の自己評価は、昨年度と同内容の学校評価アンケートを、生徒・保護者・教員に対して同時期に行い、その結果を全教員で確認し自己評価につなげた。 ・今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、年度初めに予定していた行事(生徒会行事、修学旅行、海外研修、スキー実習、学校説明会、保護者対象の進路説明会等)が内容の変更や延期、中止、オンライン開催になるなど、急な対応を取らざるを得なかった。学年や分掌等で感染症予防対策を講じ、なるべく教育活動を止めることなく行事等が実施できるよう対応してきた。昨年度課題になっていたオンラインによる学習保障については、ChromeBookのgoogleクラスルームを活用し、学習の遅れが出ないような対応を行った。このような状況ではあったが、学校評価アンケートの結果から、約8割の生徒が充実した学校生活を送っている様子が伺えた。一方で、不安要素を抱える生徒もおり、コロナ禍で不安等が推察されることから、引き続き丁寧な見守りと安心した居場所づくり等を行っていく必要がある。 ・来年度から新学習指導要領が年次発表されるため、カリキュラムの見直しや時程変更等を行った。今後は指導と評価の一体化に向けた研修等の充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っていく。 ・また、来年度から新入生全員がタブレットPCを活用することから、学校としてICTを有効的に活用した授業を展開し、生徒一人一人の学びを深めていくことが必要となる。	